

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察技術情報 第2号を発表しました。

イネ縞葉枯病の発生が近年増加傾向にあります。例年イネ縞葉枯病の発生が多い地域では、防除等のご指導願います。

## 平成26年度 病害虫発生予察技術情報 第2号 イネ縞葉枯病の防除対策について

- 1 対象作物 水稻
- 2 病害名(媒介虫) イネ縞葉枯病(ヒメトビウンカ)
- 3 対象地域 西播磨地域
- 4 保毒虫率 高い
- 5 発病時期 7月中～8月下
- 6 本田防除適期 7月上旬(ヒメトビウンカ第2世代幼虫盛期)、出穂2週間前(同第3世代盛期)
- 7 イネ縞葉枯病について
  - (1) ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の高い地点は、西播磨地域に多い。昨年にイネ縞葉枯病が激発した地点においては、過去10年の調査の中では最高となる20%を示した(図1)。
  - (2) イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカ(写真1)は、小麦で第1世代が繁殖し、6月上旬に最盛期を迎えた(図2)。発生虫数は昨年並みの59.1頭で(12地点のすくい取り調査10回の平均虫数)、そのうち47%の個体が老齢幼虫であった。(昨年16%)。小麦の収穫期には成虫期を迎え、昨年より多くのヒメトビウンカが水田へ移動していると考えられる。
  - (3) 昨年本田のイネ縞葉枯病の発病株と保毒虫率の関係は、両者は連動して高まっており(図3)、初期の発病を抑えることが効果的である。



写真1 ヒメトビウンカ成虫



写真2 初期発病株

- 8 防除上の留意点
  - (1) 7月中・下旬に見られる発病株(ゆうれい症状:写真2)は、出穂期の感染源となるので、発病株を速やかに抜き取る。
  - (2) イネ縞葉枯病の感染には、ヒメトビウンカの保毒虫率と発生量の双方が関係する。防除の目安は保毒虫率が1%の条件で、①6月中～下旬の第1世代成虫3頭/株以上、②7月上旬の第1世代成虫+第2世代幼虫合計30頭/株以上である。保毒虫率が10%の場合は上記数値の10分の1を目安とする。
  - (3) 防除薬剤については、「兵庫県農薬情報システム※」等を参考に選定し、農薬使用基準を守ること。

※兵庫県農薬情報システム(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

